

非暴力直接行動

№112

5^日 1981
Apr

戦争抵抗者インター-日本部 大阪市阿倍野区旭町2-12-2 ウィリアムビル大阪発行



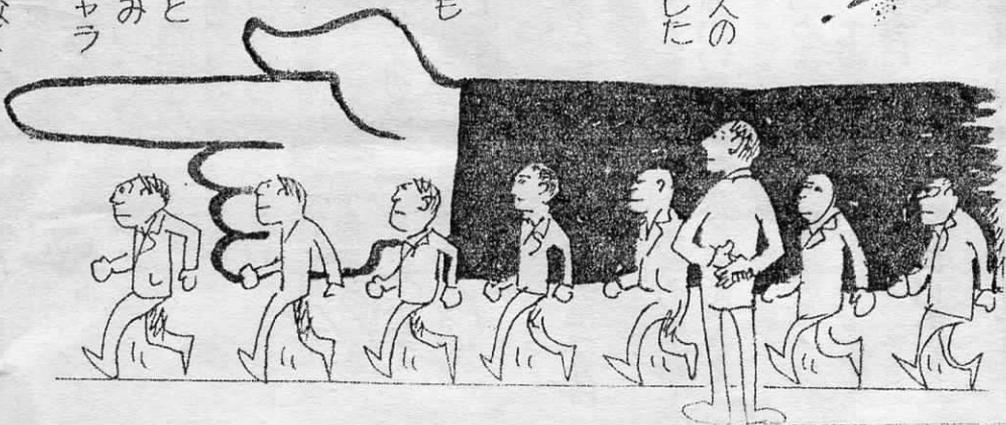
女の反戦 エッセイ集

一九八一年三月十五日、日曜日の中島野外音楽堂、二五〇人の参加者ほとんどが女性。近年まれにみる痛快な集会とデモで行かへんかった人は残念様。

ちや？ 黒装束が…… (カニ節)

集会は、一分間アピール、フォークソング、詩の朗読、寸劇とおもしろおかしく、ジーンと胸を打って涙が出たり、とにかく大忙しで参加した人がひとつになつて楽しんだ集会でした。

婦人民主クラブのおはあちゃん(矢礼)おねえさんたちの迫力おん年々歳にしてこのたくましさ、この執念。女の立場から見た戦争を、広島を、慰安婦を語つておはあちゃん詩人。この人もすごい迫力で胸にげまる。ギターひき語りのフォークソングに聞きほれる……とちやちや、突序黒装束に白の丸ハチマキ、手にグバ棒の右翼が乱入、みるみる舞台を席巻。この非常時にはおまえらは何というこいだノチャラチャラ女子供が戦争反対とはなにこいだと天声でわめく。静まり返る会場。するはむくむく、向か白のものが、と思つてもなぐ



war resisters' international

今度は「戦争いやじゃー」の大声とともに白装束の女たち。

声にたじろぐ右翼。白と黒の大乱闘、と、どからとなく歌
声があつてきた。武器をすてまじや、ブキ。武器をすてま
じや、ブキ。女の力は平和の力。武器より花をあなたにあげる
参加者みんなの大合唱。ついに右翼も一しきに踊りまくつ。

あとは大はく突。実は何とこれすべて寸劇だったので、多
少内容を前もって知っていた私でさえ、「いや、ひょっとしたら
本物の右翼どちがつか」と思うほどの出来はえでした。

この時のポリスの動きがおもしろかった。彼らもだまされた
つ。右翼が登場するとあわてふためき裏隠れ。やっと「これが
劇だとわかる」と、また舞に戻って写真を撮ったりメモしたり。

「あーまわりさん、おまわりさん、あんだかて死ぬのイヤヤ
ヤロ、女房や子供がかわいかる、ほんだらいつしよにデモ
やるなあー」「右翼が来たらあんだら逃げて、やっぱりあんだ
ら右翼の味方か」とおしかりチクリ。おしいことに少し遠く
で彼らの表情がよく見えぬ。

オニ部

女性がなぐってトビヤサイカ!

いよいよデモ出発。中央郵便局前までのコース。このデモが
騒々しくつておもしろ。

「戦争いやじゃー、戦争いやー、戦争いやー」

「えじゃないか、えじゃないか、えじゃないか。戦争反対
ええじゃないか」「女が強くて、えじゃないか」「白衛隊な

くても、えじゃないか」「四列ならばんでも、えじゃないか
と歌つておどつてシユプレヒコール。

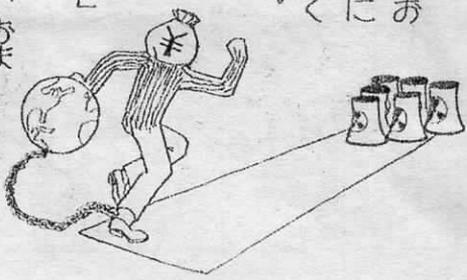
先頭は五色に輝く横断幕、ムシロやお
しめの旗もひろがえる。子供は手に手に
風船持つて、はしゃぎながら歩いて行く
何事か、とビルの上から天藝の貝物人、
道行く人もしばし立ちどまりデモに見
入る。すかさず配られたビラを讀む
人も多い。

「ほんに、戦争よりか平和がええのつ」と
と応援してくれる人、人。
またまたわき起る、あーまわりさん、おま
わりさんの声。

「ねえ、いつしよに坂こ、あんだええ男やねえー」の呼びかけ
に、はすかしそうな若い警官。
「いつつ、しゃべつたらあかん」と、あわてた古手のおっちゃん
警官がどやしつける。「かわいそう、そんな言わんでもええ
のに」

あれやこれやで、あつとつまにデモ終点。「またやるなあ
あー」の声に実感がこもる。そう、男の私も「またやりたい」
と思つた。奥にすばらしい集芸デモでした。

(石川和彦)



♥日高に原発たてさせへん
そ!! 電気料金不払い連合
15 歳のひぐり市民講座第26 第1・開講
死の灰まいて、おんまの花を咲かす
4月11日(土)11時

♥良心的軍事費拒否の会開
西グループ・4月例会
21 次、井原隆会談、お取り締まりせよ

♥たんぼ図書館公開講座
する女グループ

♥何かなんでも原発に反対
する女グループ

原簿から「被告」放射線病出せ ん。保証しませ。安全な「日高 町民各住職」 Y 1000	「五東」加田夫婦「被告」 353・8956 0899・14・4718 木	6時半 共同小塚「被告」 353・8956 725・14・4718 木	6時半 共同小塚「被告」 353・8956 725・14・4718 木	6時半 共同小塚「被告」 353・8956 725・14・4718 木
---	---	--	--	--

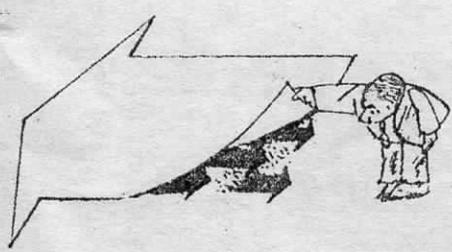
裁判の意味―原告被ばく訴訟判決

Kou

▼ 3月30日大阪地裁。岩佐訴訟判決の古い渡しは、主文だけのわずが数十秒。「原告の訴えを棄却するし」。

▼ 傍聴席がとれず、廊下で待つていたら、すぐ鞆が置いてみんながらおつと出てきた。その中に岩佐ヤンがまじつてて、口早やに「全面敗訴です」という。やっぱり…予測どおり。

▼ 数日前、岩佐さんから電話があったとき、こんなことを話した。「岩佐訴訟は、もう判決が出るまでに、勝つてます。ほかはじめて傍聴にいった三年まえは、ほくのひとにギョリの人か知つてるだけやった。それがいまは全国数十万にひろがるしマスコミも注目して、書きたてねばアカンようになってます。



判決なくか負けても、もう勝負がついてるんやから肉體もありません。

裁判で、事実の理非善悪が明らかになるなんて、99%、絶対、期待できませんけど、岩佐さんが訴訟で申つたこの七年間の苦勞は、判決敗訴でもひっくりかえりません」

▼ それにしても司法の裏幕はぐてものはめちやのちやだ。仲田弁護士によると、判決文前半では、「原告内での放射線被ばくの事実自体の立証を原告

に求めることは不可能を強いるに等しい。具体的多発性が立証されれば必要かつ十分」といひながら、とつぜん後半の文脈が変つて 岩佐さんの右ひざの病状は、阪大病院での診察以降は放射線皮膚炎の症状とよく一致すると認められたものの、その診察をうけるまでの二年三カ月の病状が明らかでないなどの理由で被告原告での作業後、間もなく発症したとは認めがたい、となるのは、当初二〇日の判民公判目が、判決文の印刷段階で上層部からの政治的思わくがはいつて、急に30日となったことと関連があるのではないかというのである。



▼ 弁護士会館ですぐ開かれた集会で「ここで断念したら、全国数々の被ばく者救済の道が断られる。上告して闘いぬきます」と語つた岩佐さんが席にもどつて、とつとメガネをはずす姿をみたら、ぼくも胸が熱くなつた。それにしてもこの「判決」は、さらに上告ということによつて、一そう 岩佐訴訟の法廷外の闘いの進展と、その勝利の機会をつつてくれたようなものだ。岩佐さんの個人的ないろいろの困難を支えながら、がんばりたい。

日高事前調査―南無阿弥陀仏関西電力

▼ 関西電力が和歌山県白高町山津に計画している原発(30機)

F&K

